
2024年度事業報告

(2024年4月1日～2025年3月31日)

概 況

コロナ禍の収束から2年が経過し、私たちの生活環境も以前と同様の状態に戻ってきました。ただ、その期間に起こった新たな習慣や価値観が定着し、社会環境や人々の趣味趣向も様変わりしたように思います。昨年度は、本会がそうした変化への対応を進めてきた一年であったと言えます。

この十年ほどのうちに、個々人がインターネット上で発信する情報が既存メディアよりも存在感を増し、世論に与える影響も大きくなっています。本会としても、時代の流れに沿って、SNSやホームページなどのオウンドメディアからの情報発信をより強化すべく、会員の皆さまからのお声を取り入れ新たなコンテンツを企画するとともに、SNS発信の頻度を増やすことによりフォロワー数の大幅な増加という形で本会に関心を持っていただける層を拡げることができました。さらに、会員の方々と一体となったSNS発信が相乗効果を生み出すことから、支部事業参加者の方々には、ハッシュタグを付けたうえでの積極的な発信を呼び掛け、公認校主宰者の方々にもSNSの研修を実施するなど、意識を高めていただけるような働きかけを行いました。

社会構造の変容に対応し、講師個人や支部委員の方々のご負担の軽減と、公益社団法人としての責務の維持を両立できる形で、講師資格の更新条件を緩和することとしました。新しい試みとしてNFD講師の更新時に単位の代わりに無料で視聴いただける動画を公開し、更新対象の多くの方々にご利用いただき、好評をいただくことができました。

12月には実に、約6年ぶりとなる実地展示形式での「第20回NFD全国高校生フラワーデザインコンテスト」を名古屋で開催しました。大人にも引けを取らない作品も目を引き、フォトコンテストが続いていたことで忘れかけていた、若い世代ならではの瑞々しい感性、豊かな創造性をあらためて思い出させていただきました。

「全国障害者スポーツ大会」は24回目を数え、佐賀県での開催となりました。今回も、会員の皆さまのみならず、地元の高校生なども含むたくさんの一般の方々に、表彰者へ贈呈するビクトリーブーケの制作をお手伝いいただきました。一方で2017年より8年間続いた「ビクトリーブーケ贈呈事業」は昨年度をもって一旦終了とし、別の角度から社会に貢献できる方法を検討していくこととしました。両事業にご参加くださった多くの皆さまに御礼申し上げます。

昨年発生した「令和6年能登半島地震」「令和6年9月能登半島豪雨」で被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。残念ながら会員の中でも被災された方々がいらっしゃいましたが、多くの皆さまからの募金をいただきましたことで、被災会員の方々にお見舞金をお渡しすることができました。暖かいご支援に感謝申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

理事長 西村 好正

各部・委員会報告

部会

総務部（花の図書委員会を含む）＜部長：林喜久江／担当理事：斯波直美・岩橋正樹＞

今年1月、昨年に続いて賀詞交換会を開催し、より多くの会員や賛助会員の皆さまにお集まりいただき、賑やかに交流を促進することができました。

コロナ禍以後に変化した社会や生活環境に対応するため、NFD講師・本部講師の更新制度の見直しを行いました。細分化されていた単位種別を統一化したうえ、NFD講師の更新条件を、支部単位10単位の取得であったところ、無料研修動画視聴もしくは5単位の取得に変更、本部講師の更新条件を、40単位の取得であったところを30単位へと、資格更新のための負担軽減を図りました。その他、講師資格に関しては、退会等により一度講師資格を喪失してしまった方が再入会した際に、在籍時と同様の講師資格に再登録できる制度を設けました。

2024年元日に発生した「令和6年能登半島地震」、続いて発生した「令和6年9月能登半島豪雨」で被災された会員の皆さまへの義援金を募り、お預かりしたものをお見舞金としてお渡しして、年会費を免除しました。

先述の講師資格に関する制度変更に対応した諸規程の改正を行った他、役員候補者選挙をはじめ、近年の社会変容に応じた規程類の改正、整備を行いました。また、他団体からの後援等の申請、賞交付申請、審査員派遣申請に関する審査を行いました。

花の図書委員会では、会報誌「フラワーデザイナー」の“本の虫”での蔵書紹介を行い、NFD公式サイトにて蔵書一覧やサービスの概要を紹介した他、選書方針に基づき、新しい蔵書を登録しました。現在の蔵書数は、寄贈本も含め3,201冊です。

会員数（2025年3月31日現在）（人）

	正 会 員					準会員	特別会員	賛助会員	合 計
	計	1 級		2 級	3 級				
		講師							
国 内	13,134	6,918	2,890	1,619	1,707	217	182	15	13,548
海 外	152	58	28	30	36	1	0	0	153
合 計	13,286	6,976	2,918	1,649	1,743	218	182	15	13,701

NFD講師の数（2025年3月31日現在）（人）

	北海道	東北	関東 甲信越	東京	中部	近畿	中国 四国	九州 沖縄	海外	合計
特別名誉本部講師	0	0	1	1	0	3	0	1	0	6
名 誉 本 部 講 師	14	22	88	58	73	114	47	41	0	457
本 部 講 師	21	41	156	79	121	129	80	51	1	679
N F D 講 師	144	332	1,296	708	1,139	1,074	608	476	57	5,834
合 計	179	395	1,541	846	1,333	1,320	735	569	58	6,976

財務部（助成運営委員会を含む）＜部長：上原真理子／担当理事：木村美智子・石崎弥佳＞

予算執行状況及び決算予測を定期的に役員へ報告、年度予算作成については、集計スケジュール、集計方法、集計結果を経営委員会へ提出しました。

クレジットカード決済で利用可能なブランド数を増やし、●VISA ●Mastercardに加え、●JCB ●American・Express ●Diners Clubがご利用いただけるようになりました。

助成事業「NFD one leaf fund」は目的や効果、事業の継続について見直し中のため募集を行いませんでした。

会員組織部＜部長：的場ゆかり／担当理事：森万代子・長谷川栄作＞

会員組織部は【支部】と【公認校】二つの大きな部門を受け持っています。

【支部】

「令和6年 支部報告会」において全53支部へ本部役員が出向、本部施策説明を行い今後の運営に生かすため、会員とのコミュニケーションを深めました。

8月4日から9月29日まで、6ブロックにおいて「ブロック別支部研修会」を開催、会場参加89名、オンライン参加16名となり、今回は支部委員マニュアルの大幅改正についての説明を行い、支部運営の活性化を進めました。

10月25日から27日の3日間、佐賀県にて「全国障害者スポーツ大会」が開催され、ビクトリーブーケ制作に延べ191名（一般参加率60%）のボランティアの参加により1,500束を制作しました。今回はSNSでのボランティア告知が功を奏し、九州はもちろんのこと、遠く東京・千葉・埼玉等からの参加者も。中には「息子が九州の大学に進学しており、ただ会いに行くより何かお役に立てれば」と話す方もいらっしゃいました。昨年に引き続き高校生ボランティア体験も8校、50名を超える参加があり、ビクトリーブーケ制作に加え、協会の事業概要の説明に目を輝かせながら聞き入る姿が見受けられました。本事業が地域のみならず、さまざまな所で良い効果を生んでいる事に協会としての社会貢献事業として定着してきたことが伺えます。

11月16日岐阜県にて、しばらく休止していた「国民文化祭」に参加しました。岐阜県の公認校及び支部の協力を得て、体験レッスンとフォトスポットの設置を行いました。2年先まで開催地との折衝も始まっており、本会としても開催地の協力を得ながら積極的に取り組んでいきます。

【公認校】

1月22日、大田区産業プラザにて「令和6年度 公認校主宰者研修会」を開催しました。3つのパートで構成。Part1は本部施策説明の後、外部講師による「事例で学ぶSNSリスク」と題した講演。Part2では公認校の抱える諸問題についてグループでのディスカッション、まとめを行いました。Part3では資格検定試験の資材変更点の解説及び指導時に役立つポイントの解説を、実作品を基に学びました。いずれも公認校にとって関心の高い事柄であり活発な意見交換が行われる等、昨年に続き熱気溢れる会となりました。

2月11日「公認校新規登録選考会」を実施、1校が新規公認校として登録されました。「花とともにプロジェクト」は、花育講習会等で情操教育の一環として行いました。

資格検定部＜部長：副島正英／担当理事：木村美智子・斯波直美＞

フラワーデザイナー資格検定試験に関わる事業「フラワーデザイナー資格検定試験」、「審査員新規登録選考会」、「審査研修会」、「審査員新規受験者のための研修会」、「NFD講師新規登録選考会」、「資格検定試験普及講師新規登録選考会」、「指導者育成ゼミ」、「資格検定試験テーマ レクチャー&デモ」、「構成理論（オンライン）」、「資格検定試験普及講師ハイクオリティーレッスンツアー」、アーティフィシャル、インドアガーデニング、

ベーシックマスターの各種修了証コースの「インストラクター講習会」、「フラワー装飾技能検定試験1級対応研修会」を実施しました。

受験生に正しい指導を行うためには、指導者自身の確かな技術や知識がより重要であることから、資格検定試験関連の指導ポイントの資料に参考作品例の画像を追加し、よりわかりやすくリニューアル、また一年を通して安定した花材選定に役立つ「推奨花材および代替花材参考リスト」を、受講する級ごとに配付し資料の充実を図りました。

実習を含めてしっかり学びたい方には「指導者育成ゼミ」、実習をせずに試験の指導ポイントを学ぶ「資格検定試験テーマ レクチャー&デモ」を東京での対面式、オンラインのハイブリッド方式で実施し、昨年度に引き続き、ニーズや目的に応じた参加形態としました。

また、資格検定試験で学んだ技術を生かし、その技術を魅力的に伝える講習会「資格検定試験普及講師ハイクオリティーレッスンツアー」を企画し、東京以外にも神戸、福岡、名古屋で開催。試験の指導者以外の会員も楽しんで参加できる講習会としました。

NFD講師新規登録選考会では技術確認（レベルチェック）の導入により、選考会参加者の技術水準の向上が見受けられました。NFD講師登録証授与式では、講師資格を生かすためのパネルディスカッション等を行い、同期となる講師や先輩講師との交流を深めました。

資格検定試験普及講師新規登録選考会では厳しい合格基準のもと新たに2名が合格し、人材育成と資格検定試験の正しい技術の普及・向上に引き続き取り組んでいます。

事業部<部長：加藤浩美／担当理事：森万代子・石崎弥佳>

昨年度は一昨年度に続き、小松弘典氏によるワールドカップ出場記念講習会を岡山・山形・札幌で開催し、好評を得ました。次いでワールドカップ2019チャンピオンのバート・ハッサム氏をオーストラリアから招き、アレンジメント、シュトラウスの講習とレクチャー&デモンストレーションを実施。大型の作品に圧倒される一方、ユーモアにあふれた楽しいトークも好評でした。恒例のウルズラ・ヴェゲナー氏による上級編・レクチャーデモも実施し、参加者を魅了しました。

「NFD全国高校生フラワーデザインコンテスト」は第20回となり、5年ぶりに名古屋でリアル開催となりました。全国から15校・35名が出展、若々しい中にも素晴らしい作品を展示しました。

「第73回関東東海花の展覧会」は当番県の群馬県在住の会員から団体展示等を公募し、地元の花をふんだんに使用した素敵な作品を披露いただきました。次回は栃木県が当番県となります。

広報部<部長：渡辺紀子／担当理事：長谷川栄作・岩橋正樹>

環境への配慮を目的に、会報誌のデジタル化を推進し、その方針について会員の皆さまへ周知してきました。会報誌の送付停止を希望する会員を募る一方で、デジタル版を利用する会員数の増加を図っています。これまで会員専用サイトにおいてPDF形式で提供していた会報誌「フラワーデザイナー」は、e-book形式へ移行し、デジタルでもより見やすい形を採用しました。

また、花ファッションデザインチームの協力を得て、「花ファッショントレンド2025」をテーマにカレンダーを製作し、全会員に配付しました。従来よりも大きなA4サイズに変更し、紙質も向上させながらも予算を効率化することで、より多くの会員の皆さまにご満足いただける内容となりました。

委員会

国際交流委員会＜委員長：西村好正／委員：的場ゆかり＞

5月に講師と役員が出向し、中国・北京で中国在住の本会会員に向けてデモンストレーションとレクチャーを実施、参加者満足度の高い事業となり、来年度の開催を待ち望む声が多く聞かれました。さらに中国の「端午節」にあわせて、文化交流事業として在中国日本国大使館の協力のもと、現地の親子連れを対象としたフラワーデザイン体験レッスンを開催しました。当日はメディアからの取材が入り、中国国内のメディア3社に掲載されました。

友好団体である台湾花芸家協会と交わされていた覚書を改定し、技術提携・交流をより深化してゆくため、当地や日本での本部事業を柔軟な形で実施できるようにしました。これを受けて、早速11月に講師を派遣、新たなデモンストレーション&レクチャー事業を開催した他、10月の講師新規登録講習会、3月の資格検定試験も引き続いて実施されました。

世界フローラルアーティスト協会（World Association of Floral Artists／略称：WAFA）の取り組みとして、2025年8月に実施予定の「WAFAオーストラリアセミナー2025」の参加案内がコミッティより届き、協会内でも参加者の募集を行いました。

また、WAFA加盟団体であるフランス国立園芸協会（Société Nationale d'Horticulture de France／略称：SNHF）から広報担当者が来日し、協会同士のコミュニケーションを図り、今後の事業展開や企画について話し合いの場を持ちました。

花とともに委員会＜委員長：上原真理子／委員：木村美智子＞

「花の宅配便事業」は、11年目を迎えました。全国23の盲学校で実施、272名の生徒の皆さまにフラワーデザインを楽しんでいただきました。既に学校行事として定着しているところもあり、参加する生徒だけではなく親御様からも喜ばれる事業となっています。ご指導くださったボランティアの皆さま、花材・資材を提供くださった日本花き卸売市場協会様、東京堂様、松村工芸様、クレイ様をはじめ、多くの方々のご協力で実施することができました。

「ビクトリーブーケ贈呈事業」は、昨年に引き続き全日本パラ卓球選手権大会（東京・神戸）にボランティアにより制作されたビクトリーブーケを約250個贈呈しました。同事業は今回をもって一旦休止となります。

資格検定試験基準改正委員会＜委員長：的場ゆかり／

委員：岡桂子・遠藤幹枝・越水清江・福尾智美＞

資格検定部と合同で研修会を開催し、資格検定試験の花材の組み合わせや指導ポイント等について資格検定試験普及講師と共通認識を図り、より分かりやすく試験内容の指導ができるよう努めました。令和6年度公認校主宰者研修会では、花材の種類を絞った資格検定試験テーマの作品の提案、説明を行いました。

また、試験関連講習会資料の見直しを行い、「フラワーデザイナー資格検定試験推奨花材および代替花材参考リスト」の配付の他、指導ポイントの資料に参考作品例の画像を追加、よりわかりやすくりニューアルし、資料の充実を図りました。現行の試験テーマにおける課題について資格検定部と共有し、資格検定試験普及講師との意見交換も行いながら検討を進めました。

技術委員会＜委員長：加藤浩美／委員：森万代子＞

(花ファッショントレンド検討会議メンバー：平野博美・長谷川典子・川原陽一郎・伊藤史江・豊田恵子・内藤育子)

花ファッション関連では7月にサマー、11月にクリスマス、12月にお正月、2025年3月にスプリングの「シーズナルレッスン」を実施。会場での対面式講習会の他、引き続きオンラインでも開催し、コロナ禍以降、普段は参加しにくい遠方の方や育児等で家を空けにくいといった方のご自宅でトレンドデザインを楽しんでいただきました。

会報誌「フラワーデザイナー」誌上では、広報部と連携し“Flower Styling”として花ファッションと住空間のコラボレーションを提案、2025年のNFDカレンダーは花ファッションデザインチームによる花ファッショントレンド2025作品で作成しました。また、毎月ホームページで「花ファッショントレンド通信」等、花ファッショントレンドを発信しました。その他、花ファッションデザインチーム内のトレンドの共通認識を図るための水準調整会、研鑽のための勉強会を実施しました。

「NFDラボラトリー講習会」は、昨年度は「和の美の魅力」を年間テーマに開催し、回を重ねるごとに徐々に参加人数も増えており、好評を博しています。

デジタルPR委員会＜委員長：渡辺紀子／委員：長谷川栄作＞

今年度は会員アンケートを実施し、会員の声を組織として聞ける仕組みづくりに取り組みました。

【会員の声に応える新企画の展開】

「花の情報がもっと知りたい」「他の会員の活動に興味がある」というお声に応え、NFD公式サイト上で新企画を展開しました。「Flower MJ」(花のマーケティングジャーナル)では、新品種や世界の花き市場の動向、植物が人体に与える影響に関する最新の研究データ等、業界の最新情報と知られざる秘話をご紹介しますサイトを立ち上げました。初年度は大田花き花の生活研究所の協力を得て毎月更新を行いました。また「だからフラワーデザイナーはやめられない」では、第一線で活躍するNFD会員の方々の生の声から、フラワーデザインの持つ無限の可能性とそれに魅了される理由をご紹介します。このコンテンツは、会員の皆さまへの刺激となるとともに、フラワーデザインに興味を持つ一般の方々にも、その魅力に触れていただけるよう企画しています。

【情報発信力の強化】

「NFDを一般の方々に広報して欲しい」というお声に応え、積極的な情報発信に努めました。ニュースリリースの配信により平均63件のメディアに掲載されました。また、中国の北京で実施した文化交流事業にも取材が入り、中国メディア3社にも掲載され、NFDの活動を広く周知することができました。SNSでの情報発信も強化し、昨年対比でInstagramのフォロワー数が約6倍、Facebookで約4倍に増加しました。さらに「NFDソーシャルメディアポリシー」を制定し、組織内での情報発信における統一ルールを確立するとともに、エンゲージメント促進とリスク管理のための指針を設けました。

【公式サイト機能強化】

公式サイトの改善にも注力し、セキュリティ、SEO、ユーザー信頼性向上のための「HTTPS化」を実施しました。またユーザビリティ向上のため、スライディング画像からの詳細コンテンツへの遷移機能を追加する等、細部にわたり改善に努めました。

資格認定委員会＜委員長：西村好正／委員：的場ゆかり・加藤浩美・渡辺紀子・

上原真理子・林喜久江・副島正英＞

正会員の再入会、公認校及び講師資格の新規登録・更新、ディプロマ事業インストラクター登録、試験審査員・コンテスト審査員の新規登録等の承認を行いました。今後も適正、公正な資格認定機関としての委員会運営を推進します。

コンプライアンス委員会＜委員長：渡辺紀子／委員：林喜久江・出口晃・大島誠・山崎修＞

定期的な委員会を開催するとともに、役員・職員へのコンプライアンス研修を企画、実施しました。